

PGI Workstation ソフトウェアと PGI Visual Fortran ソフトウェアの併用の際の注意点

PGI 10.9 以降において、Windows 版の以下の製品ライセンスをご購入いただいた場合、Microsoft (R) Visual Studio 統合開発環境下で使用可能な PGI Visual Fortran ソフトウェアも併用できるようになりました。

- PGI Fortran/C/C++Workstation/Server 製品 (Windows 版のみ)
- PGI Fortran Workstation/Server 製品 (Windows 版のみ)

1. 概要

Windows 版の Fortran 言語を含んだ PGI Workstation/Server 製品のライセンスキーの中に、PGI Visual Fortran ソフトウェア (以下、「PVF」と言う。) も利用可能とするように、PVF キーが追加されました。これら製品用に取得した一つのライセンスファイルで、PGI Workstation 系 (シェル環境でのコマンド操作) と PVF(Visual Studio 上の操作)の二つのソフトウェアを利用できます。但し、PGI Workstation ライセンスの場合は、ノードロック・ライセンスのため、1台のマシン上で二つのソフトウェアを併用する形となります。PGI Server ライセンスの場合は、ネットワーク上で新たに PVF ソフトウェアが使用可能となります。

2. インストール時の注意 (ライセンスファイルの扱い)

- 1台のマシン上に、二つのソフトウェアを別々にインストールする必要があります。
- インストール時にソフトウェアを実装するフォルダは、別々のフォルダとすることを推奨します。この二つのソフトウェアのデフォルト実装フォルダは、どちらの場合も C:\Program Files\PGI であるため、どちらか一方を異なるフォルダ名を指定してインストールすることが必要です。実装するフォルダの指定は、インストール中、そのウィザードで指定が求められます。

【推奨】 PGI Workstation はデフォルトの「C:\Program Files\PGI」とします。

PVF は、「C:\Program Files\PVF」(一例です) とします。

- ライセンスファイル (license.dat) は一つのファイルで共有されますが、license.dat の設置場所は、次のルールに従います。二つのソフトウェアのインストールの順序に関連し、後でインストールしたソフトウェアの実装フォルダの直下に、license.dat を設置して下さい。上記の推奨の例で言うと、PGI Workstation を最初にインストールして、次に PVF をインストールした場合は、PVF の実装フォルダ「C:\Program Files\PVF」直下に license.dat を設置することになります。
- インストール中に、「ライセンスキーの自動取得を行うか？」の問いに関しては、最初のソフトウェアのインストール時には、NO として自動取得を行わないようにします。その後のソフトウェアのインストール時に、ライセンスキーの自動取得と自動設置を行います。これによって、自ずと、後にインストールしたソフトウェアの実装フォルダ下に、license.dat が設置されます。
- この license.dat を設置後、自動で PGI ライセンス・マネージャが起動されます。PGI ライセンス・マネージャの起動は、「コントロールパネル」→「管理ツール」→「サービス」→「PGI License manager」で操作可能です。

以上